

解説

① 漢字の読み書き

② 文末表現／強調することば

(1) オ「伝聞を表す言い方」とは、「さそうだ」といった、他人から伝え聞いたことを表す言い方です。カ「否定して推し量る言い方」とは、「さまい」といった、「さないだろう」という意味を表す言い方です。

(2) ①「さぞくでしよう(だろう)」は推量を表す表現、②「ぜひ」は「ください」などと結び付いて、心をこめて強く願う様子を強調する表現、③「きつとろちがいない(はずだ)」は話し手の確信を表す表現、④「まるで」は「ようだ」などと結び付いて、たとえを表す表現、⑤「よもやくあるまい」は「そういうことはほとんどありえない」という予測を表す表現、⑥「まったくくはない」は「ちつともくはない」と同じで否定の意味を強調する表現です。キの「どうしての(のか)」は疑問の意味を強調する表現、クの「もしくなら」は仮定の意味を強調する表現です。

③ 詩(武鹿悦子「遠い遊び」より)

(2) 「カロリナポプラ」の数が15本で、このあとで出てくる「陽気なともだち」の数と同じであることをヒントに考えましょう。

(3) 「秋の陽差し」は人間ではないので「指さきでしきりに背なかつついでくることはありません。このように、人間ではないものを人間に見立ててたどえる技法を擬人法といいます。

(4) 「忍び笑い」は、声をひそめて笑うことという意味です。

(5) ⑨行目の「ハンカチ落とし」は、実際のハンカチを用いて遊ぶハンカチ落としのことではなく、カロリナポプラが落とした落ち葉を昔の「わたし」が拾い集めている様子を表した表現です。「わたし」は昔と同じような光景を見たことで、なつかしい気持ちになっているのです。エが正解です。アは、ハンカチ落としを実際の遊びととらえているところがまちがいです。イは「自分に少しさびしさを感じている」、ウは「自然に対して目を向ける余裕をなくしていたことを反省している」が、それぞれふさわしくありません。

④ 物語(本田有明「夢をかなえる 未来ノート」より)

(2) 正解の一文の少し前に「背が高く、横幅も大きな巡査」とありますが、ここには「ぼく」の印象が書かれていないため、ふさわしくありません。

(4) ぼう線④の直後に、「三月で定年になり、くなんて言うつと、涙が込み上げてきそうな気がした」とあることから、「ぼく」が悲しい気持ちになっていることが読み取れます。

(7) 空らんのおとの文の「いちおう合格じゃないかな」から、「ぼく」がある程度自信を持っていることがわかります。「胸を張る」は自信のある様子を表します。

(8) 「絶句」とは言葉を失うことです。「ぼく」は、原田さんの動体視力のすごさにおどろいて、何も言えなくなっています。

(9) 「ぼく」が答えた期間は、いずれも原田さんの鍛錬の期間に比べればとても短いものでした。「ぼく」は何かの成果を出すためには、長い鍛錬が必要だということに気がつかれています。

(10) 原田さんは、木島先生との思い出や自身の体験などをかくことなく「ぼく」に話していて、動体視力をよくしたいという「ぼく」の悩みにも親身になってアドバイスをしています。イが正解です。アは「時には厳しいことばをかけて」、ウは「冗談があまり通じないようなかたいところはある」、エは「自分ができることは相手も当然できると考えていて」が、それぞれふさわしくありません。